

OBOG 会の平均年齢を大きく超えた 67 歳としては、様々な人たちとよい関係を続けることに小さな喜びを感じるようになりました。肉親を始めとする多くの死に立ち会った経験により、自分の未来は永遠ではなく、限りがあることに気づいたのかもしれませんが。

いつの間にか 50 年以上の付き合いとなった高校時代の友人のことは、若い時より大切に感じるようになり、もうすぐ 50 年の付き合いとなる大学時代の友人や理工ボート部の同期生とは、以前より集まる回数が増えました。仕事を通じて親しくなった会社、業界、異業種の多くの人たちは、好きな人たちとだけ付き合いを続けているからかもしれませんが、時々小さな happy を届けてくれます。先日も、以前の部下たちが私の誕生日を祝ってくれましたが、部長職についている者も同席しておきながら、毎年、私のカードで会計するルールになってしまっています。小さな happy には原資が必要です。



<13期の仲間と新潟で芝刈り後>

若いときは自分のことしか考えられなかった人間が、少しは周りを見る余裕ができたのだらうと小さな喜びを感じています。未だに情熱を持って仕事に取り組めることに小さな幸せを感じ、タイトなスケジュールを 40 年以上も続けた後に、自由に時間を使えるようになった現在に小さな幸せを感じています。



<エストニアにて>

このような感性が若いときに身につけていれば、もう少しマシな人生になったと思いますが、「たら」「れば」が通じるようなら、私の芝刈りのスコアはプロ並みになっているはずなので、欲張ることなく果てるまで、友人、知人とのコミュニケーションを大切にして、小さな幸せを拾い集めていきたいと思っています。

最後になりますが、未来の部員、現役の諸君、OBOG 会の皆さん、特に OBOG 会を支えていただいている皆さんのご健勝を祈念しています。

以上